

令和2年度 徳島県生活交通協議会幹事会 議事概要

1 開会挨拶

本県の公共交通を取り巻く環境は、利用者の減少、ドライバー不足など、大変厳しい状況が続いている。県民生活に不可欠な「路線バスの維持」をはじめ、県民の移動手段や観光客の二次交通の確保が大きな課題となっている。

こうした中、昨年12月には「地域公共交通の羅針盤」となる「次世代地域公共交通ビジョン」を策定した。また、昨年度からは県と市町村が協調し幹線系統バスを支援する新たな制度をスタートさせ、ビジョンに沿った取組を進めている。

2 地域間幹線系統確保維持計画（案）について

【計画概要】

この計画は、令和3年度における国の地域公共交通確保維持改善事業費補助金を受けるために必要なもので、令和3年度から3年間の計画を策定して国土交通省に提出する。

地域間幹線系統である広域的・幹線的なバス路線は、高齢化が著しく進む本県において生活を支える重要な移動手段となっている。一方で、人口減少などを背景に公共交通機関の利用者は減少しており、事業者の経営環境は厳しい状況にある。このため、国の補助事業である地域公共交通確保維持事業を活用し、バス路線を確保・維持し、生活交通手段を存続させていくことを目的とする。

路線の運行については、各路線の収支率を1%以上改善することを目標とする。令和3年度の国庫補助対象路線は28系統、国庫補助金申請額は112,049千円となる予定。対象系統全体の平均乗車密度の平均値については、生産性向上の取組により4.5以上にすることを目標とする。

また、バス車両については、計画的に更新を図ることで、輸送の安全性・快適性を確保するとともに、ノンステップバスの導入を促進し、利便性の向上を図る。令和5年度末までにノンステップバスの導入率を81%以上とすることを目標とする。令和3年度から令和5年度にかけて、徳島バス(株)が毎年7台ずつ更新していく計画とし、令和3年度の国庫補助金申請額は52,625千円となる予定。

本県においては、徳島市を中心に徳島バス(株)、三好市を中心に四国交通(株)が補助対象路線を運行しており、事業者のサービスの品質、安全運行管理の体制、利用者利便対策など、これまでの実績を勘案し、引き続きそれぞれの運行システムの運行をお願いしたい。

【アンケート調査等】

(1) 徳島バス(株)

今年度はコロナウイルスの影響でアンケートが実施できていないため、例年多く寄せられる意見を想定した。

- ①最終便が早いとの意見が多い。業務時間の拘束の制限もあり、運転手不足が深刻であることから、現状では対応が困難である。
- ②バスが時間通り来ないとの意見が多い。雨天時は20分以上遅れることがあり、利用者からお叱りを受けることがある。通常時のデータによりダイヤを組んでいるため、天候に大きく左右されるのはある程度は仕方がない。
- ③便数が少ないとの意見が多い。運転手不足の問題もあり、対応は困難であるが、需要を調査していきたい。
- ④各市町村への要望として、公共交通を利用しやすい町づくりを依頼したい。

(2) 四国交通(株)

- ①大歩危駅前を利用する観光客が多いが、異常気象時の運行状況が分からず不便なので、デジタルサイネージの導入を検討している。

－ 委員一同 計画(案)を承認 －

3 その他

(1) 新しい生活を支える！公共交通応援事業について

－ 以上 －